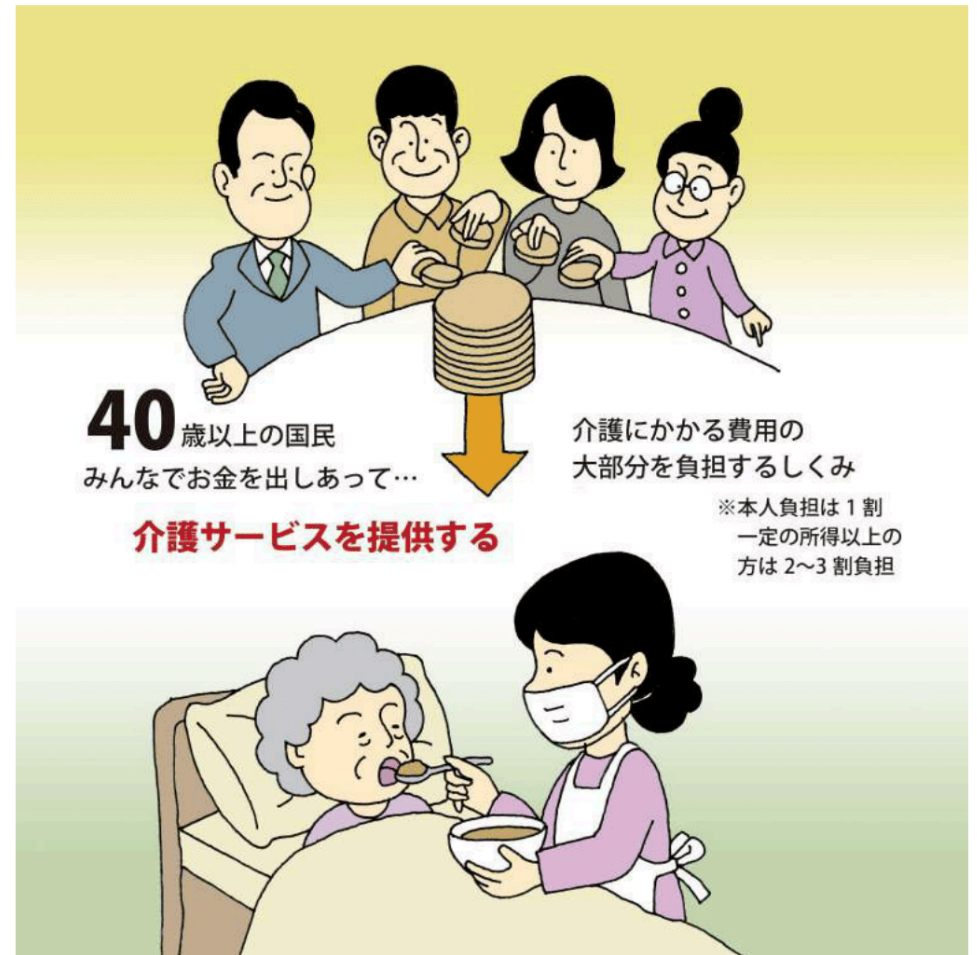


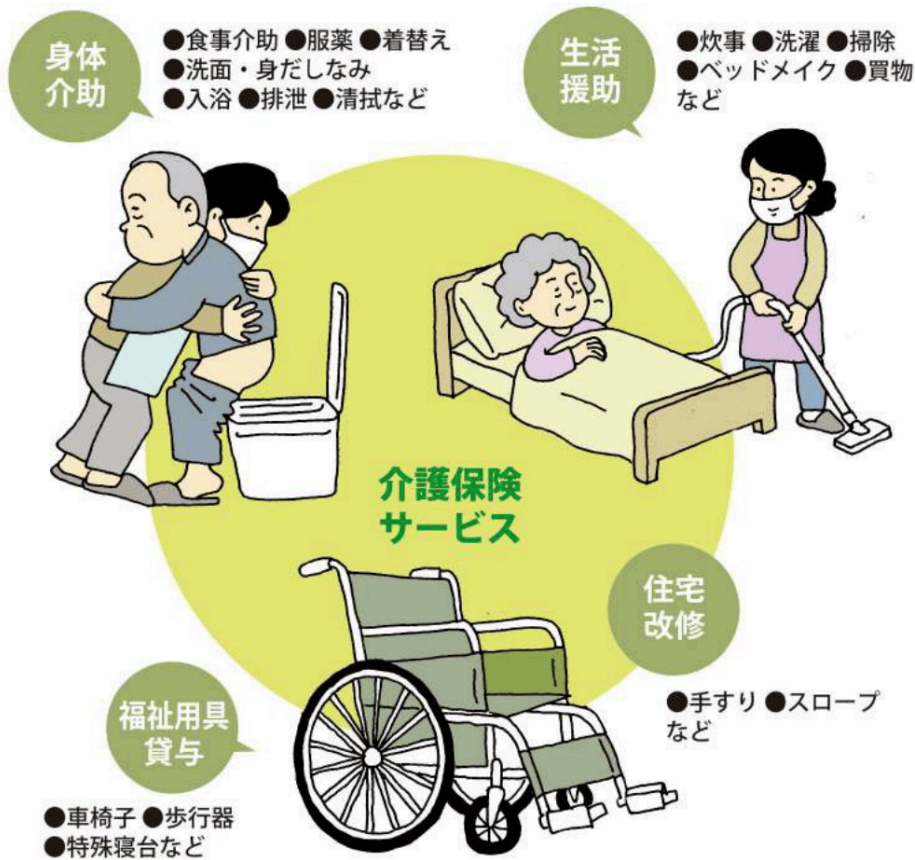
## 40歳からの介護知識 3 介護保険って、何？

40歳になったら、すべての国民が加入を義務づけられる「介護保険」。  
名前は知っていても、実際、どのような「安心」をサポートしてくれるのか分からない。  
そんな人も多いのではないかと思います。  
ここでは「介護保険」が提供するサービスとしくみについて、簡単に把握しておきましょう。  
人は歳をとって「健康寿命」を迎えると、他の人の手助け、つまり「介護」が必要になりますが、  
そういった人たちの「日常」を支えるサービスを、経済的にサポートするのが「介護保険」の役割です。



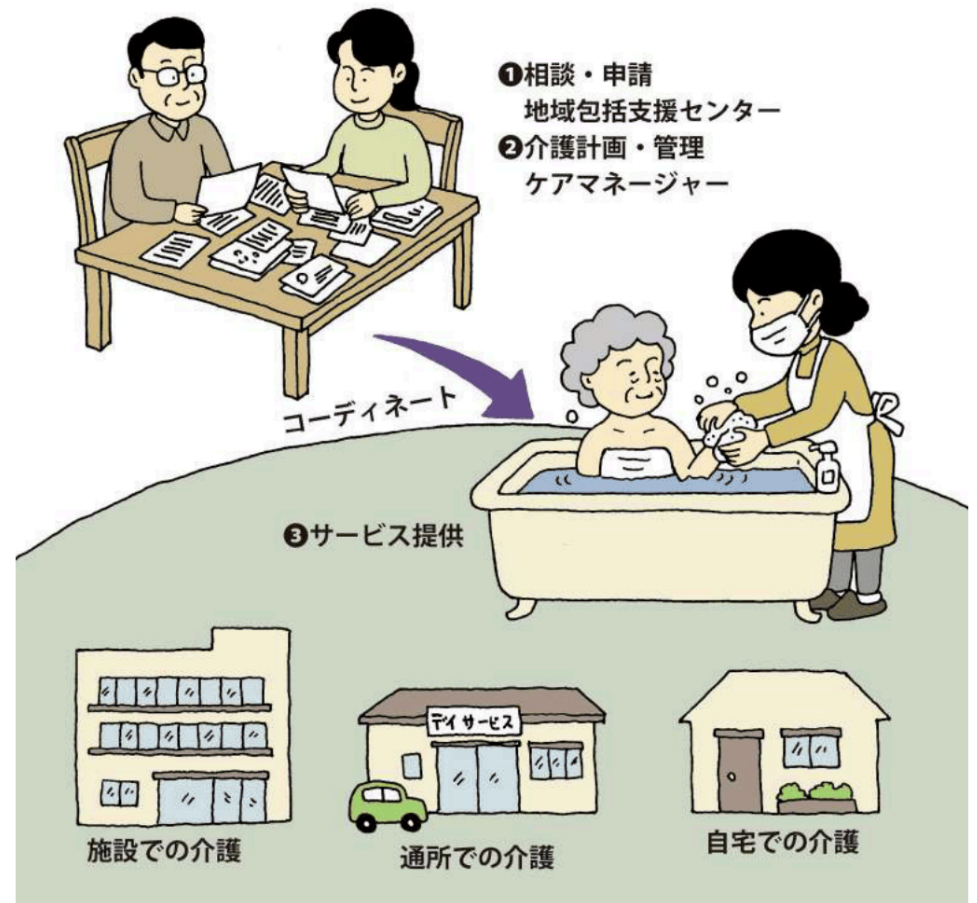
### 【1】「介護保険」って、どんなしくみ？

保険というと、がん保険や自動車保険、生命保険、健康保険などが身近ですね。  
介護保険は、40歳以上になると誰でも加入を義務づけられ、保険料の支払いが生じます。  
では「介護保険」って、何なのでしょう？  
たとえば「誰かの手助け(介護サービス)」を依頼するにも、当然お金がかかります。  
しかし介護が必要な高齢者が「収入が少ないためにサービスを受けられない」のは、本末転倒です。  
そこで、40歳以上の国民みんなでお金を出しあって、  
介護を必要とする人に、介護費用の大部分を負担しようというのが、介護保険のしくみです。



## 【2】「介護サービス」って、どういうもの？

介護が必要になると、私たちが普段おこなっている日常生活、たとえば食事をしたり、トイレに行ったり、そんな基本的な行動さえ、困難になります。介護サービスは、介護が必要な度合いや、本人の希望、ご家族の事情に応じて、計画的に介護を提供するしくみです。たとえば「身体に触れて介助するサービス(=身体介助)」や、「家事など基本的な日常生活のサポート(=生活援助)」、または福祉用具や、住宅改修など、生活の質(=QOL)を高め、自立した生活をサポートするためのサービスです。



## 【3】介護サービスに関わる人たち。

介護はまず「相談」からはじまり、「要介護認定」という手続きが必要ですが、いちばん初めの窓口として、親身になってサポートしてくれるのが「地域包括支援センター」です。「要介護」が適用され、介護保険サービスが受けられるようになると、限られた制約の中で、その人にとってどのようなサービスを提供するのがいいのか、計画したり、サービスをマネジメントしてくれるのが「ケアマネージャー」です。そして、実際に介護サービスを提供してくれるのが「介護員(いわゆるヘルパー)」です。他にも医療的なこと、認知症、法律的な専門家など、様々な人が連携してサービスを提供します。